

江戸時代『平妖伝』本城維芳訳における漢語の使用状況

—昭和時代太田辰夫訳との比較—

The Usage of Chinese Vocabulary in the Translation of "Hei You Den" by HONJYOU

Koreyosi in the Edo Period

—Comparing with the Translation by OTA Tatsuo in the Showa Period—

孫 云偉

SUN Yunwei

**内容提要：**本研究通過分析日譯版中國明末白話小說《平妖傳》中來自漢語裏的漢字詞（日語称作“漢語”）的收錄情況，对江戸时期與昭和时期日譯白話小說中漢字詞的歷史發展狀況進行考察。分析發現，江戸末期本城維芳譯《通俗平妖傳》（1802）中廣泛收錄了漢字詞，可以看出不僅唐通事，社会上的一般學者也重視“唐話”的使用。與之相反，昭和时期太田辰夫譯《平妖傳》（1967）中的漢字詞使用非常少，不同的漢字詞收錄狀況反映了不同的時代特徵。

**キーワード：**漢語使用 『平妖伝』 江戸時代 昭和時代

**目次**

- 1 唐通事の唐話と翻訳資料の漢語
- 2 『平妖伝』訳本（1802）と『平妖伝』訳本（1967）の紹介
- 3 『江戸明治唐話用例辞典』との漢語比較
- 4 『平妖伝』訳本（1967）との漢語比較
- 4.1 両書的一致語
- 4.2 『平妖伝』訳本（1802）のみに収録されている漢語
- 4.3 『平妖伝』訳本（1967）のみに収録されている漢語
- 5 おわりに

研究資料

参考文献

附録1『平妖伝』訳本（1802）に収録されている漢語（中国語ピンイン順）

## 1 唐通事の唐話と翻訳資料の漢語

唐話に関して、「本来は長崎の唐通事が自らが話す中国語を称して用いた呼称であり、長崎で学ばれ用いられていた」<sup>1</sup> ものである。最初の唐話入門書は長崎で通事経験を持つ岡島冠山が著した『唐話纂要』である。その後、貿易業務に関わる専門用語の教科書としての『譯家必備』、唐通事以外の日本人によって記述された『海外奇談』などの唐話資料も数多く出版され、唐話の研究の成果も多く発表された。そのため、これらの唐話資料から、唐通事がどのような唐話を学んだのか、会話で使用したのかがわかる。

また、江戸時代の人々は、唐人貿易を通して日本にもたらされた中国の唐話教科書、白話小説などに関心を持ち続け、白話小説の翻訳も始めた<sup>2</sup>。しかし唐話の研究と違い、翻訳資料の漢語利用についての研究はそれほど多くない。例えば、南雲千香子（2015）は箕作麟祥が訳した『仏蘭西法律書』の傍訓付き漢語と傍訓なし漢語の特徴を考察した。本稿では漢語の傍訓付きに関係なく、原本と同じ語彙、意味も同様という使用現象を取り上げる。

本稿の研究資料である『平妖伝』は、最初の訳本は江戸時代に出版され、もう一つの訳本は昭和時代に出版された。江戸時代から昭和時代までの165年間で両書に翻訳で利用した漢語<sup>3</sup>にどのような違いがあるかを明らかにすることが、本稿の研究目的でもある。また、『平妖伝』は有名な白話小説で、語学、版本などの側面で、すでに多くの研究成果が発表されている。江戸時代の訳本に対する研究は荒木典子『「通俗平妖伝」に見られる指示詞"道"、"那"について』（2017）と鐘一沁『「通俗平妖傳」の翻訳方法について』（2021）の二篇あるが、昭和時代の訳本についての研究はまだない。本稿は江戸時代の訳本『平妖伝』から漢語を取り出して、翻訳資料の中で漢語はどのように取り上げられていたのか、また、唐通事以外の学者は漢語の使用状況を探っていききたい。

## 2 『平妖伝』訳本(1802)と『平妖伝』訳本(1967)の紹介

『平妖伝』は明代の羅貫中、馮夢竜が民間伝承や流行っている物語に基づいて編纂した長編白話小説である。最初は羅貫中が二十回本の『三遂平妖伝』を編纂し、後に明末の文学者馮夢竜が、四十回本『北宋三遂平妖伝』に増訂した。『平妖伝』も英語訳本と日本語訳本があり、最初の日本語訳本『平妖伝』は本城維芳によって1802年に翻訳され、新たに『通俗平妖傳』（以下、『平妖伝』（1802）と記す）と名付けた。そしてもう一つは1967年に太田辰夫が翻訳した『平妖伝』（以下、『平妖伝』（1967）と記す）である。本城維芳の訳本も太田辰夫の訳本も、馮夢竜の増訂版を底本としている。

『平妖伝』（1802）は四十回本『平妖伝』の第十回まで訳した。該書は「引首」、「題にす

<sup>1</sup> 奥村佳代子 2017 : 4。

<sup>2</sup> 小田切文洋 2008 : 003。

<sup>3</sup> 唐話でも漢語でもいずれか江戸時代の中国語語彙である。

る目録」、そして「本文」から構成されている。目録には、『平妖伝』第二十四回までが著録され、初編として刊行された十回の順序、名称は原本と全く同じである。本文には数多くの漢語を左、右側にカタカナで表記され、発音と意味解釈を添えた。また、毎回の文頭にある詩、文中の詩、一部の段落などは翻訳されていない。

一方、『平妖伝』(1967)は四十回本を全て翻訳した。そして本書は目次、主要人物一覧、引首、本文から構成されている。本文には『平妖伝』(1802)と違い、翻訳しない部分はなく、詩まで全訳した。本稿では『平妖伝』(1802)との比較研究を行うため、太田辰夫の訳本も第十回まで調査した。

### 3 『江戸明治唐話用例辞典』との漢語比較

統計によると、『平妖伝』(1802)には全763例の漢語が収録され、名詞、動詞、形容詞、代名詞、副詞、四字熟語などとなる<sup>4</sup>。唐話資料では二字話、三字話、四字話、五字話及び六字話の唐話があるが、『平妖伝』(1802)は二字話、四字話の漢語が多い一方で、三字話は僅かしかない。また、小田切文洋が著した『江戸明治唐話用例辞典』(以下、『唐話用例辞典』と記す)にはより多くの唐話が収録されており、本稿の参考資料として、『平妖伝』(1802)の漢語との比較を行う。それらの漢語を品詞ごとに用例を挙げたものが以下である。

#### (1)名詞類

半晌、本事、包裹、東西、鬼話、機關、記性、老漢、老天、平生、天色、天氣、臥房、新聞、音耗、地方、搭膊、高手、黄昏、夥伴、早路、後生、好歹、好處、解庫、情分、毛病、模様、列位、男女、孩子、適纜、一路、造化、主意、螟蛉、被窩兒、乾娘、工夫、盤纏。

#### (2)形容詞類

敗落、停當、標緻、慚愧、方便、古怪、害羞、晦氣、悔氣、潔淨、俊俏、快活、勉強、狼狽、乾淨、慌忙、囫圇(蛋兒)、僻靜、悄悄、使得、熟分、一般、猙獰、利害、作怪。

#### (3)動詞類

安置、安歇、安排、白賴、纏繞、出租、打掇、分付、打熬、伏侍、供招、誇口、理會、盤旋、牽掛、收拾、保重、扯住、傳說、傳揚、揷掇、擔閤、分解、話説、合計、計較、看待、募化、歇氣、取笑、瞧見、起動、起身、商議、商量、説話、説謊、題起、頑耍、枉費、問訊、相擾、歇息、演習、依允、眼花、囑付、知道、照顧、作別、受用、連累。

---

<sup>4</sup> 本稿では、固有名詞を収録しないことにする。

#### (4) 代名詞類

俺們、諸般、這般、自家、那里、大家、恁般。

#### (5) 副詞類

方纔、果然、故意、連忙、索性、順便、依舊、剛剛、險些兒、原來、約莫、只顧、喃喃、突突(的跳)。

#### (6) 慣用語・成語類

不消得、赤條條、翻筋斗、氣憤憤、笑嘻嘻、端端正正、沸沸揚揚、歡天喜地、悶悶而坐、探頭探腦、彎彎曲曲、七張八嘴。

上述の漢語の中の、「螟蛉」「解庫」「停當」「搭膊」「恁般」「出粗」「打熬」「募化」「不消得」の意味は『唐話用例辞典』によると、それぞれ「養子」<sup>5</sup>「質店」<sup>6</sup>「適當である」<sup>7</sup>「腰をしぼる帯」<sup>8</sup>「このような(に)」<sup>9</sup>「ののしる」<sup>10</sup>「がまんする」<sup>11</sup>「喜捨をもとめる」<sup>12</sup>「～するに及ばない」<sup>13</sup>の意味を表す。このような難解な漢語は多くないが、翻訳の際にそういった漢語が意図的に日本語の訳文が持ち込まれたと考えられる。

また、『平妖伝』(1802)と『唐話用例辞典』が共に収録されている漢語は150例が見られ、収録された全漢語の約2割を占める。両書は共に収録された漢語は多くないが、このことから、「唐話」は唐通事以外の日本人にも影響を与えたと考えられる。

### 4 『平妖伝』訳本(1967)との漢語比較

#### 4.1 両書の一致語

太田辰夫が訳した『平妖伝』の漢語は本城維芳の訳本との一致しているものが154例あり、その中で『唐話用例辞典』にも収録されていた漢語は「光景、親切、焦躁、左右、好漢、卻説、天氣、一路」の僅か8例しかない。『平妖伝』訳本(1967)に使用したこれらの漢語を品詞ごとに挙げると以下となる。

#### (1) 名詞類

白髮、白色、本業、筆墨、病源、畜生、得道、凡人、婦人、劍術、今日、慧眼、火焰、後

---

<sup>5</sup> 小田切文洋 2008 : 325。

<sup>6</sup> 小田切文洋 2008 : 263。

<sup>7</sup> 小田切文洋 2008 : 441。

<sup>8</sup> 小田切文洋 2008 : 095。

<sup>9</sup> 小田切文洋 2008 : 338。

<sup>10</sup> 小田切文洋 2008 : 085。

<sup>11</sup> 小田切文洋 2008 : 096。

<sup>12</sup> 小田切文洋 2008 : 330。

<sup>13</sup> 小田切文洋 2008 : 068。

裔、好漢、冠服、功德、怪物、空中、空地、毎年、毎日、美男子、名醫、冷汗、老人、綠色、乾坤、強盜、樹木、神通、神明、神鬼、死罪、死後、世人、世間、敗行、山中、水面、天上、寒光、邪心、祥瑞、因縁、心性、月光、夜間、愚民、眾人、背後、魚腸、菜園、病人、豆腐、風雨、經典、精力、精神、葷酒、和尚、荒山、古跡（蹟）、光景、來年、霹靂、親爺、石塊、石橋、數日、生辰、先生、天氣、檀香、頭髮、心頭、香氣、鮮血、養子、香煙、右手、左右、左手、資性、紙錢、諸般、誠心、路上、獸心、消息、香爐、衣服、楊柳、蹤跡、自然、多年、古今、怪風、枯木、化身、縱橫。

## (2)形容詞類

剛直、怪異、慷慨、飄然、愀然、奇怪、淒然、輕薄、親切、隨意、無聊、愚直、貞潔、仔細、聰明、長久、富貴、荒涼、危險、許多、一心、歡喜、辛苦。

## (3)動詞類

布施、變化、傳授、出現、教練、靜養、談論、下界、修行、應驗、展開、居住、護送、賄賂、叩頭、埋葬、呻吟、卻說、逐鹿、留（流）傳。

## (4)四字熟語類

百發百中、千刀萬刃、起死回生、三教九流、半信半疑、驚天動地、陰風慘慘、情誼相通。

## (5)數量詞類

一縷（香煙）

両書で一致する漢語は『平妖伝』（1802）の全体の約2割を占める。要するに、両書の刊行に165年間の隔たりがあるが、昭和時代の漢語使用は江戸時代から受け継がれていたと言える。また、『平妖伝』（1967）では第一回から第四回までに用いられた漢語が数多くあるが、その後の回では各々僅か5、6例しかない。つまり、全体として、白話の原文に付く翻訳が少なくなったということが分かった。

### 4.2 『平妖伝』訳本(1802)のみに収録されている漢語

『平妖伝』（1802）のみに収録されている漢語は459例あり、用例は附録1の通りである。また、それらの漢語を品詞ごとに用例を挙げたものが、以下である。紙幅の関係上、用例の多い品詞は引用を控える。

## (1)名詞類

小孩子、別人、布帘、布衫、雌雄、大霧、夫妻、蛋殼、鏡面、雞窩、今生、今夜、敬重、

景色、裙子、他人、天生、晩飯、性命、眼睛、以後、樂器、雨傘、言語、終日、昨日、自己、字體、中間など。

#### (2)形容詞類

驚疑、礙眼、悲傷、悲切、粗莽、好笑、可憐、刻薄、迷惑、默然、利害、老成、淒慘、清爽、崎嶇、容易、許久、尋常、顯赫など。

#### (3)動詞類

修整、疑惑、催促、答應、妒忌、縫補、供養、喚醒、寒心、驚醒、妙用、誇獎、納悶、徬徨、謙讓、思量、收養、訓練、洩漏、招待など。

#### (4)副詞類

猛然、連夜、隨後、豈敢など。

#### (5)数量詞類

一條（破裙子）、幾件、幾斗（麥子）、一個、一夥（禿驢）、一縷（香煙）、一團（黑氣）、一群、一幅、一塊（石頭）、一封（柬帖）。

『平妖伝』（1802）では数量詞はそのまま漢語が使われているが、『平妖伝』（1967）は「一縷（香煙）」のみ漢語が使われ、他の数量詞はすべて日本語に訳された。唐通事は、江戸時代の日中貿易に不可欠な存在であった。貿易なら、数字や、数量詞などはとても重要であり、習得する必要があったと考えられる。そのため、『平妖伝』（1802）には大量に数量詞が保留され、これも唐話と関係がある。

また、前述したように、『平妖伝』（1802）に収録された漢語は763個あり、『唐話用例辞典』と一致する漢語、『平妖伝』の両訳本で一致する漢語を合わせて約4割を占め、残り全ては本城維芳が訳した『平妖伝』（1802）に存在している独自の漢語だと言えよう。しかし、このような現象を形成した一つの原因は今回の参考辞典が一冊しかなく、含まれた漢語が限られている。

### 4.3 『平妖伝』訳本(1967)のみに収録されている漢語

『平妖伝』訳本（1967）のみに収録されている漢語は75例ある。次のように用例がある。

#### (1)名詞類

泥土、教師、涕淚、面前、布袋、霧氣、門前、禍福、死期、兄妹、異人、善心、現世、星

光、生命、吉凶、妖魔、來歴、父子、靈前、檀木、石洞、夢想、宿縁、鮮魚、欄干、青菜、樓房、秘密、誓願、曠野、功勞、深淵、當時。

## (2) 形容詞類

無數、散亂、専心、失望、繁華、無禮、不平、小心（持戒）、偶然、大胆、慈悲、性急。

## (3) 動詞類

精通、祭祀、隨行、掌管、監守、裁決、犯罪、釋放、瀟漫、靜坐、凝結、同行、誅戮、侮辱、發掘、詛咒、閒遊、瞑目。

## (4) 副詞類

全然、畢竟、逐一。

## (5) 四字熟語類

有名無實、七情六慾、一舉兩得、長生不死、太平無事、茫茫蕩蕩、長嘯一聲、一年四季。

以上の用例から見れば、『平妖伝』（1967）は「教師」「現世」「生命」「失望」「犯罪」「長生不死」「太平無事」などのように、現代の一般的に使用する語彙、つまり現代日本語の常用語彙を収録している傾向が見られる。

また、太田辰夫訳本は現代翻訳資料として、すでに本文には漢語の使用が少なくなった傾向が見られる。その理由は、江戸時代の白話小説の翻訳が白話の語彙や文法をそのまま日本語の訳文に持ち込んだことと異なり、昭和時代の翻訳法は口語体に近いため、相応しい日本語を使うようになったことと関係がある。しかしながら、ただ十回本の翻訳から 229 例の漢語を取り上げられたことから、昭和時代において翻訳資料は江戸時代との翻訳法とは大部変わったが、漢語の使用状況はその影響を受け継いだといえる。

## 5 おわりに

本研究は、日本で翻訳された中国明末の白話小説『平妖伝』における漢語収録状況を分析し、日本における漢語使用の史的考察を試みた。

江戸末期本城維芳訳『平妖伝』（1802）には幅広く漢語が取り入れられているだけでなく、数量詞、四字熟語まで用いられていたことから、「唐話」を重要視した側面が窺えた。それに対して、昭和時代太田辰夫が訳した『平妖伝』（1967）の漢語使用は随分少なく、『唐話用例辞典』にある漢語は僅か 8 例しかないことから、独自の漢語収録が見られる。一方、約 2 割の漢語は『平妖伝』（1802）と一致することから、昭和時代の漢語使用は江

戸末期の唐話の影響を受けたと言えよう。

今後は他の唐話辞典を参考にし、本城維芳の訳本における他の漢語に関する収録状況について引き続き調査していく。

### 研究資料

本城維芳訳 1985『通俗平妖伝』（1802刊）『近世白話小説翻訳集 第五巻』汲古書院

太田辰夫訳 1967『平妖伝』『中国古典文学大系 36』平凡社

罗贯中 冯梦龙 1993『十大古典神怪小説 丛书 平妖传』（1620）上海古籍出版社

### 参考文献

小田切文洋 2008『江戸明治唐話用例辞典』 笠間書院

南雲千香子 2015「箕作麟祥訳『仏蘭西法律書』における傍訓付き漢語について」、『日本語学論集』11 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室

奥村佳代子 2017「『唐話纂要』の「三字話」、『関西大学東西学術研究所紀要』50 関西大学東西学術研究所

### 附録1 『平妖伝』訳本(1802)に収録されている漢語(中国語ピンイン順)

A	安然、安穩、礙眼
B	半途、白霧漫漫、百姓、布帘、布衫、半輪、別人、悲傷、步行、把戲、彼此、保佑、半日、別處、半沉半浮、不明不白、不慌不忙、不悅、病痛、幫助、被罩、波濤洶湧、悲切、本院、拔起、半雲半霧
C	雌雄、朝見、查點、長嘯一聲、塵世、出處、殘疾、出神、癡心妄想、醜陋、茶果、成人、成長、出家人、常常、催促、草棚、喘息、重新、抄錄、粗莽、充實、出身、裁縫
D	等閒、東邊、當類、大千世界、大戸、大霧、大膽、東鄰西舍、當初、多少、答應、對面、躲避、打掃、東鄰西舍、妒忌、多時、抖擻
E	恩情、餓死、兒子、耳目混亂、惡人、惡報
F	分明、夫妻、風寒、浮屠、繁花、費用、風霜、父母雙亡、放手、蛋殼、撫養、縫補、粉碎、防身
G	果子、供養、古風、乾糧、高壽、觀看、怪事、各處、隔絕、隔斷、功業、乾糧、告示
H	黃臉老兒、紅日、懷胎、喚醒、哄弄、忽然、紅牆、後邊、花木、歡喜無量、厚意、寒心、後面、護佑、好笑、火性、好話、黑炭、迴避、好人、憨子
J	交加、焦躁、鏡面、舊路、窺瞰、伎倆、敬重、澗水、家書、今晚、聚集、景



	致、幾日、進退、精細、機會、驚醒、叫喚、今生、漿洗、雞窩、幾件、將來、舊話、今夜、酒色財氣、見識、經過、驚疑、敬重、絕路、奸猾老兒、景色、飢餓、飢渴、借債、幾時
K	寬大、窺見、空手、空門、空間、空屋、可憐、苦茶淡飯、咳嗽、恐怕、看病、磕頭、窟窿、刻薄、誇獎
L	兩個、兩邊、兩位、兩旁、雷鳴、獵戶、連夜、落後、憐愛、冷眼、老實、襪襖、藍布、卵生、流水、亂山深澤、兩處、冷靜、冷淡、冷笑、禮物、路程、老翁、老成、籠兒、冷冽、連聲
M	妙用、妙處、猛然、迷惑、明月、明日、明早、明朗、明白、明火執杖、毛骨悚然、媒人、夢中、門前、門外、悶死、蒙茸、默然、茂林、每每、目前
N	那邊、納悶、男子、年歲、年紀、年少、年頭
P	皮肉、平日、便宜、配合、徬徨、破綻、陪（賠）禮
Q	前來、前面、前因、前身、豈敢、其中、奇症、奇奇怪怪、癩子、窮鬼、親切、青春、青天白日、謙讓、清淨、祈求、權勢、淒慘、前後、奇異、清秀、清爽、裙子、親眷、奇處、千恩萬謝、全然、器械、清香、錢財、崎嶇、情詞、起床、去年、取出
R	饒舌、人間、熱茶、容貌、容易、人煙、人生、若干
S	山頭、山川、山路、山野、双眼、神威、赦免、傷損、聲響、世上、世界、生生世世、生日、生路、世路狹窄、生死、生魂、十分、身上、所謂、搜尋、雙手、身亡、少東缺西、聲音、素菜、私約、樹林、思量、上吉、收留、收養、是非、喪事、收斂、素齋、隨後、俗事、深秋、屍首、少年、時務、勢利、濕氣、石壁、石床、石盤、勝會、梳妝、衫兒、首級
T	他人、調養、貪嘴、途中、天地皆知、胎生、天數、天然、天生、天理彰彰、天机、啼啼哭哭、疼痛、貪心
W	外人、外面、臥室、微笑、霏霏霧氣、晚飯
X	許諾、訓練、仙氣、相處、西邊、姓名、許久、尋常、性命、媳婦、險僻、雪天、相見、險峻、心迷意亂、心事、相會、洩漏、相逢、性急、心忙腳亂、祥雲、小孩子、小娘子、小產、心中、相送、相識、下面、下降、雄壯、相陪、形容、血崩、修整、顯赫、繡結、袖兒、箱兒
Y	眼睛、疑惑、一往一來、一日、一生、一切、一個人、一群、一年半載、一口氣、野心、要害、緣故、遊玩、以後、雨傘、幽靜、殷勤、慾火如焚、夜氣昏昏、異類、言語、雲遊、樂器、依靠、陰德、野種、異事、眼淚、魚池、英雄、衣衫襤褸、有無
Z	終日、招待、作怪、左右、罪過、自新、遮掩、災厄、中間、照樣、昨日、昨

夜、自己、自陳、中間、早起、早飯、醉意、字體、瞻禮、莊嚴、週歲、諸般、 暫時、爪甲、周圍、整理、賊物、執事、作怪、造反、朝夕、柵欄
--